



議会だより



# とのしよ

No.39

contents

- 町議会の動き……………2～3P
- 常任委員会の活動……………4～8P
- 特別委員会の活動……………9P
- 一般質問……………10～12P
- 編集後記……………12P



平成22年  
2月5日発行／第39号



恋人の聖地「約束の丘展望台」より

# 町議会の動き

## 平成21年度補正予算内訳

(単位：千円)

会計名	補正額	補正後	説明
一般会計	51,676	6,977,021	主な事業
			小豆島オーリーブス株式会社 出資金 5,000
			し尿収集業務委託料(大部地区のみ3か月分) 1,500
			予防接種事業委託料・予防接種 実費負担助成事業 8,463
			妊婦乳児健康診査助成事業 2,820
			災害復旧費(農林水産業施設・ 土木施設) 9,794
特別会計			
介護保険事業	5,601	1,336,321	スプリンクラー整備事業補助金
福祉サービス事業	720	106,060	嘱託職員処遇改善手当

12月定例会は、12月9日から11日までの3日間の会期で開かれ、平成21年度補正予算3件、条例関係4件、その他2件、工事請負契約の締結1件、人事案件2件、平成20年度決算認定などを審議し、原案どおり可決しました。

こんなことが決まりました

## 12月議会定例会

### 条例改正(一部改正)

育児短時間勤務制度が創設されました。

これは、職員が職務を完全に離れることなく育児を行うことを可能とする、育児のための短時間勤務を認める制度です。関連条例以下3件の一部改正が可決されました。

◆土庄町職員の勤務時間、休暇等に関する条例

◆土庄町職員の育児休業等に関する条例

◆土庄町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例

◆土庄町消防団員の定員、任免、給与、服務等に関する条例

### その他

◆瀬戸・高松広域定住自立圏の形成に関する協

定の締結(高松市と本町とで協定締結)

※ 詳しくは4ページ(企画課)をご覧ください。

### 財産の処分について

土庄町字洲鼻 1筆(王子前埋立分譲地)

### 人事案件

◆人権擁護委員候補者の推薦

・土庄町柳 柳生 巧氏  
・土庄町肥土山 出水利明氏

### 工事請負契約の締結

◆平成21年度唐櫃漁港地域水産物供給基盤整備事業(5工区)A防波堤建設工事

・請負代金 1億2千7百5万円  
・工事請負人 五洋・トニオン特定建設工事共同企業体

## 11月臨時会

11月27日

### 条例改正(一部改正)

◆土庄町議会議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例

◆土庄町長及び副町長の給与支給条例

◆土庄町職員の給与に関する条例

※ 給料月額引き下げ及び自宅に係る住居手当の廃止、期末・勤労手当の引き下げ(人事院勧告実施のため)

### 平成21年度補正予算

◆一般会計補正予算  
◆簡易水道事業  
◆国民健康保険事業  
◆介護保険事業  
◆福祉サービス事業  
※ 人事院勧告により総額3千9百43万4千円の予算減額

# 平成20年度 土庄町一般会計・特別会計歳入歳出決算および 公営企業会計決算の認定について

平成20年度一般会計の歳入総額75億2,260万6千円、歳出総額73億6,405万8千円とそれぞれ前年度に比べ68%、80%と増額決算となっております。一般会計決算の実質収支は1億3,587万8千円の黒字であるが、財政調整基金の取り崩しなどを引くと実質単年度収支は3億4,122万1千円の赤字となっております。

円という苦しい状況となっております。

数多くの質問がまじりながら主な審議内容を掲載します。

一方町債は、土庄中学校舎改築事業等により1,041万4千円増え、一般会計、企業・特別会計を含めると、96億2,340万3千円の借り入れとなっております。町民一人につき59万2,209円の借金をしていることとなります。

歳出面では、人件費の抑制や事務事業の効率化により、一定の歳出削減をしていますが、土庄中学校校舎改築事業等による普通建設事業費が大幅に増え、厳しい状況に変わりはありません。

以上、各課とも慎重に審議をし、町長を始め執行部に対し、改善策などを申し上げた上で、すべての決算を承認したことを報告します。

## 《総務課》

選挙経費の大幅な減額、常備消防費での広域行政への負担金の減、全国消防大会での非常勤消防費の増、電算委託料等の節減。

## 《住民環境課》

ごみ・し尿の減量化、交通安全施設の整備状況、戸籍、住民登録関係の窓口関係業務の現状。

## 《農林水産課》

農業振興策の今後、Kブランド商品の認証方法、サル・シカの被害対策、耕作放棄地でのオリーブの植栽など。

## 《教育総務課》

保育所費の町外保育所運営委託料、給食材料の地産地消など。

## 《水道課》

水事情、水道事業の民間委託、老朽配水管の布設替えの状況。

## 《健康増進課》

認知症サポーターの養成等地域のネットワーク体制。居宅介護サービス

## 《土庄中央病院》

医師・看護師等の確保、赤字決算の状況と対策、診療報酬制度の改正など。

## 《生涯学習課》

公民館の自主事業の内容、放課後子ども教室、図書館の行事、高見山展望台の活用策。中央公民館の冷暖房設備の整備計画。

## 主な改善策の 要望事項

- ・ 町債を減らす計画の具体性
- ・ 物品の購入の改善策
- ・ 滞納の未然防止と滞納整理
- ・ 観光客の推計数字の出し方の改善策
- ・ 幼稚園統合への考え方や今後の展望

。

一般財源の中心となっている町税は、急激な景気悪化の影響から前年度より20%減少するなど、依然として厳しい状況が続いています。

経常収支比率は80%台後半で推移していたが、90%を超え、財政構造の硬直化が進んでいます。

また、財政調整基金も7,066万2千円減少して、5億5,499万

抑制や事務事業の効率化により、一定の歳出削減をしていますが、土庄中学校校舎改築事業等による普通建設事業費が大幅に増え、厳しい状況に変わりはありません。

本議会および各委員会の開催状況、議員研修。監査の実施状況や住民監査請求の状況。

## 《福祉課》

社会福祉協議会の監査の実施、福祉電話事業、高齢者緊急通報体制整備事業。後期高齢者医療制度の内容。

## 《建設課》

港湾管理費、町有地のオリーブの実の収益、建築確認申請の現状。

## 《人権対策課》

小海浜住宅の建替終了後の今後の計画、人権教育の研修啓発事業の内容、児童館や隣保館の事業。

## 《出納室》

資金運用、公金管理運用。

## 《企画課》

退職手当組合負担金の現状と今後、移住交流事

## 《健康増進課》

認知症サポーターの養成等地域のネットワーク体制。居宅介護サービス

## 《人権対策課》

小海浜住宅の建替終了後の今後の計画、人権教育の研修啓発事業の内容、児童館や隣保館の事業。

# 常任委員会の活動

総務建設常任委員会

(11月20日)

## 総務課

### 町有地の財産処分に ついて

町広報誌で公募している土地が1筆あります。売却実績ですが、濑崎につきましては、元公園でありましたが、自治会の了解を取り、売却したものです。伊喜末については、「みなと診療所」の駐車場部分が賃貸であったが、今回買い取っていただいた。

旧国有農道・水路等については、売却したのが7筆あります。売却代金は合計で1,834千円程度となります。

### 学校跡地利用

各地区からのいろいろな要望があります。大鐸地区は地区公民館の移転、



旧大部小・中学校廃校校舎解体の様子

大部地区は旧小・中学校校舎を取り壊した場所への公民館の建て替え、戸形地区からは海浜学校としての再利用への検討が出ています。目下、プロジェクトチームの方で研究中ですが、今しばらく猶予をいただきたいとの説明でした。

### 定額給付金事業

4月13日に申請書を発送し、10月14日に申請の受付を終了しています。この間、いろんなトラブルがありました。最終的には、6,950世帯、

## 企画課

瀬戸・高松広域定住自立圏の形成に関する協定に盛り込む取組事業について

この事業は高松市を中心市と位置づけ、周辺の5町が協議して参加するものです。

① 医療を安定的に提供できる体制の確保

「地域医療ネットワークを使った連携」を目指す。

② 観光の振興

高松観光プロモーション事業の拡充、新たな観光プランの企画、海外観光客向け情報発信事業を考えている。

③ 中心市街地におけるにぎわいの創出

町としても整備された中心市街地の機能について、住民の利用向上を図る。

④ 消防・防災体制の強化

地震等による大規模災害時における防災体制、特に応援体制の一層の充実・強化を図る。

⑤ 不法投棄対策事業の推進

連携して不法投棄されているごみの回収を行い、環境美化意識の向上を図る。

⑥ 地域公共交通

海上交通の確保、充実に検討し、来年の瀬戸内国際芸術祭の開催にあたり、必要な公共交通の確保・充実。

⑦ ICTインフラ整備

圏域内でのフロードバンドゼロ地域の解消に向けて効果的な技術・手法等を研究。

⑧ 地産地消の促進

中央商店街の再開発事業等において、地場産品直売所等を整備し、直売所等の活用。

⑨ 地域内外の住民の交流促進

自然体験等を盛り込んだイベントを開催し、圏域内の人々の参加を促進。

⑩ 文化芸術

文化的資産の活用、

文化芸術鑑賞機会等の提供、瀬戸内国際芸術祭関連事業の実施。

⑪ スポーツの振興・交流

屋島陸上競技場の活用。

⑫ 市町の職員等の交流や大学との連携

以上のほか、土庄町は22項目について高松市との連携を想定しているとの説明でした。

### 主な質疑応答

問 定住自立圏取組事業は、具体的にはどうなるのか。

答 12月議会で、協定議案を提案します。その後、高松市を中心に共生ビジョンという具体的なものを決めていきます。

※1 情報通信技術に関する施設やシステム・機能などを整備すること。

※2 高速な通信回線の普及によって実現される次世代のコンピュータネットワークと、その上で提供される大容量のデータを活用した新たなサービスのこと。

**税 務 課**

**徴収率について**

町税では、19年度と比較して収納率が低下しています。町税の全体では収納額で約3,000万円の減額、率で1・96%の減となっています。

全体としては、固定資産税、国保税の徴収率の低下が大きく響いています。原因は、固定資産税では大口の滞納者が出たこと、国保税では後期高齢者医療制度の創設によるもの。また、景気の低迷により失業者、離職者が増えたことが主な原因だと考えています。

滞納対策としては、担当地区を10箇所に分け、職員が地区を担当して徴収を行っています。期限までに未納の場合は翌月に督促状の送付、電話、個別訪問等、徴収率の向上に努めています。なかなか効果が上がらないのが現状であるとの説明でした。

次に、香川滞納整理推進機構の利用については、

個人県民税、市町村民税の滞納を減らすことを目的として、平成17年8月に設立され、具体的な業務としては、滞納整理に向けた財産調査、納税交渉、滞納処分を主に進めています。徴収する税目は県と町の共通の税目である個人住民税だけで、概ね50万円以上である案件を、町からの申請により対応することとなっています。

**■主な質疑応答**

**問** 滞納整理推進機構には、いつ頃入ったのか。

**答** 設立の時に加入しているが、依頼はしていない。

**建設課**

**土庄港臨港道路の現状**

香川県におきましては、港整備交付金事業で、耐震強化岸壁の整備を行い、耐震岸壁から町道吉ヶ浦4号線を結ぶ臨港道路（延長150m）の整備に着手しており、全体事業



現在の土庄港付近

費は約1億5千万円となります。平成21年度は、道路部分の測量・設計委託、小豆島バス建物の物件調査・用地測量については発注済となっています。用地補償につきましては、年内には地権者との交渉を開始したいと考えており、22年度から道路工事に着手し、年度内に完了する予定との説明でした。

県事業に併せて、町として吉ヶ浦4号線整備事業を21年度から22年度で予定しており、年内までに建物補償および用地交渉を行いたいと考えています。22年度は、駐車場、マイクロバス待機場等の

整備を予定しています。西土庄港線整備事業は、本年度に用地を購入し、22年度に工事を予定したいと考えています。土庄港緑地化の予定は、県が整備する臨港道路について、片側の歩道には緑地帯を設ける。レストラン味彩前の町道西土庄港線を締め切り、緑地として整備予定。中央棧橋横の土庄港環境整備事業は22年度から24年度完了予定で、観光の港にふさわしい緑地整備を行いたい。現在、地質調査業務と設計業務を発注しており、現地にふさわしい工法・構造を検討しています。

**高潮対策の現状と今後の対策**

県へ確認したところ、土庄港では、現在、大木戸、吉ヶ浦、大谷、中屋敷、畝木の各地区や家浦港など高潮対策施設の整備を行っており、22年度についても、引き続き、未対策区域の施設整備を行いたい。また、今後は、地元調整が整っていない所また、必要な所を調査して実施する予定との説明でした。

**■主な質疑応答**

**問** フェリーの出入口のオーキドホテル前は、閉められてしまうのか。

**答** 臨港道路ができると、出入口が2箇所になり、交通整理上危険ではないかということで、レストラン味彩の前を締め切り、緑化する予定です。

**農林水産課**

**農業委員会のあり方**

委員の定数は、選任による委員7名、選挙によ

る委員18名で25名です。選任による委員は、農協・農業共済組合・土地改良区から各1名、町議会から4名です。この件は、全国的に行財政改革が進められる中、各種組織の定数が削減されている状況下で、本町も土庄町行政改革集中プランの中で、委員定数の見直しが挙げられています。その後、農業委員会で定数の見直しについて協議し、委員の意見を集約したところ、定数維持を要望することになりました。

主な理由は、農地法等の改正にあり、これまで許可不要であった国・県の公共転用が許可の対象となり、規制が強化される。

農地の権利移動の一般基準は、利用者が申請地を適正に耕作できるかどうかなどの基準に加えて、申請土地だけでなく周囲の営農状況への影響を含めた審査が求められることになった。また、農地利用調整等の機会が増え、

地域農業に精通する農業委員が重要な役割を担うなどが主な要因です。

**漁港建設の今後**

現在、町管理の漁港は15港あり、地元の要望などを集約し、公共でできるものと単県および町単独でできるもの、老朽化対策、高潮対策に分けています。特に平成16年の高潮災害における要望が多く、この高潮対策については、単県の事業費も抑制され、一気に事業ができないが、順次進めていこうと考えています。公共事業は、平成22年度に唐櫃漁港の事業が終了する予定であり、23年以降は、田井漁港において埋立や防波堤の延長等を検討している段階であるとの説明でした。

**■主な質疑応答**

**問** 漁港の事業は、高潮対策の整備として挙がっているが、公共の事業とはどう違うのか。

**答** 全ての漁港が町管理

となり、町が主体となるが、漁港の規模や事業が大きいものなら、公共で金額的に小さいものなら、単県や町単独でしなければならぬ。

**水道課**

**ダム貯水量の状況**

11月に入り思わぬ降水があり、11月の平均降水量をかなり上回りました。吉田ダム、北部水系は満水に、豊島も満水に近い状態になり、殿川ダム、新中山池も98・7%に回復したので、冬場は何とかもちそうな貯水状況であるとの説明でした。

**水道料金の現状と他市町との比較**

【土庄町水道事業調査特別委員会（9ページ）に掲載】

**商工観光課**

**コールセンターの現状と今後の見通し**

コールセンタースタッフ養成研修会の実施状況

は、コールセンター就職希望者を対象に、基礎的な研修を行っています。申込みは100名の定員で、77名の申込みがありました。

コールセンターの施設については、この度ウェルコム社の方針内容に変更がありました。

内容は、高松地方裁判所に競売物件として、同じオリブタウンの中の施設が競売物件になっており、現在、特別売却という手続きに入っている。この施設の方に変わるということで検討している。かなり施設も広く、改修費も安く済むということでした。

**瀬戸内国際子ども映画**

11月25日に実行委員会が開催され、そこで内容等が、ある程度決まるので、それ以降に委員会等で説明します。

**瀬戸内国際芸術祭の現状と今後の方向性**

名称は瀬戸内国際芸術祭2010「アートと海

ART  
SETOUCHI  
2010

瀬戸内国際芸術祭「アートと海を巡る百日間の冒険」

期間：7月19日～10月31日



を巡る百日間の冒険」、会期は、2010年7月19日から10月31日、会場は7つの島と高松周辺での開催となっています。

土庄町に関係する事業は、豊島で新美術館を整備ということで、豊島アートプロジェクトとして建設中です。それと、ポルトランスキーププロジェクトというものを考えているそうです。12月19日に起工式があり、その時に地元説明会がある予定です。

一方、小豆島では、11月1日に肥土山と中山に入る予定のアーティスト、王(ワン)さんが視察し、どの場所かで、どのような作品を実施するか検討中です。また、12月5日に北川フラム氏を招いて、中山と肥土山地区の合同説明会を予定しているそうです。

**第30回瀬戸内海タートルマラソン全国大会**

参加申込者は、合計で2,902人の申込みがあ

りました。昨年より402人の増となっています。特にフルマラソンが227人の増で、これは30回記念大会ということ、制限時間を5時間から5時間30分と30分延長したのが原因かと思えます。

**■主な質疑応答**

**問** コールセンターの場所が新しい施設に変わるようだが、開設時期はどうなるのか。

**答** 新たな施設の方が、面積も1.5倍ほど広く、規模を拡大するにも良い。また、開設時期は、まだ返事がない。

**問** 芸術祭は、当初フレトピア周辺から富丘八幡さんの桟敷についての話があったと思うが、どうなっているのか。

**答** 桟敷とフレトピアについても、何かのイベントを考えているみたいですが。豊島と中山・肥土山地域のことしか、情報は入ってこない。

教育民生常任委員会

(11月9日)

福祉課

21年度版子育て応援特別手当の執行停止

10月15日に厚生労働省から執行停止の局長通知が出され、翌16日に閣議決定されています。

執行停止についての支給対象者への周知は、各種報道等により、すでにご承知かと思われるので、町のホームページには情報を掲載していますが、個々への周知は考えていません。今後は必要に応じて検討していく予定です。

なお、執行停止の決定までに要した準備経費等は、厚生労働省で事務取扱交付金により対応するべく検討している状況です。現在のところ、電算システムの委託料として10万円程度の支払いが発生する見込みで、予算は、3月議会で減額したいとの説明でした。

健康増進課

新型インフルエンザについて

今回の新型インフルエンザの特徴は、①感染力は強いが多くの患者は軽症のまま回復していること、②抗インフルエンザ薬による治療が有効であるとされているが、通常の季節性インフルエンザとの違いは、新型インフルエンザでは基礎疾患(ぜんそく・糖尿病)を有する者を中心として、また、一部ではあるが若年者に重篤化することが見られます。こうした中、町としては感染の防止対策等を広報や防災無線で呼びかけてきました。

また、新型インフルエンザワクチンの接種について、11月広報で優先接種対象者に対するワクチン接種についてお知らせしていますが、確保できるワクチン量が限られているので、優先順位対象者からの接種予定となっているとの報告がありました。

■主な質疑応答

問 予防接種のスケジュールを、もう少し早くできないのか。

答 国の動きとして、今免疫の検査中なので2回が1回になる可能性もある。そうなれば前倒しで行っていく。

生涯学習課

劇団四季

「くまの劇場」の小豆島公演が決定

○開催日

平成22年1月31日(日)

○場所

土庄町立中央公民館

○入場対象者

土庄町・小豆島町・直島町の小学5年生・6年生

約600名の予定

○費用

全額劇団が負担

成人式について

○開催日

平成22年1月10日(日)

○場所

土庄町立中央公民館

○対象成人者数

191名の予定

○内容

各地で青年組織が復活しています。従来の成人式で終わることなく、各地の青年組織にも参加していただき、町の次世代を担う若者の育成を目指した成人式にしたいとの説明でした。



△平成22年1月10日開催の成人式▷



教育総務課

延長保育について

町内の保育所入所状況は、公立5保育所と私立2保育所を併せると、入所児童が189名で定員は310名、入所率は61.0%になっています。

また就学前の児童数が平成21年4月1日現在、578名で、32.7%が利用していることとなります。通常の保育時間は、午前8時15分から午後5時までとなっているが、保護者の希望により受け入れ時間は、午前7時30分から午後6時まで実施しています。次に香川県下認可保育所延長保育実施状況ですが、県内では211保育所があり、延長保育を実施しているのが118箇所、率にして公立保育所が35.2%、私立保育所が88%、全体で55.9パーセントの実施状況になっています。延長の保育時間は、平日で午後6時から7時まで、1時間を延長保育ということになっています。

この延長保育については、前回の委員会の中で看護師不足の中でどうしても、必要でないかという話があり、できれば公立の保育所で延長保育を考えてはどうか、それとコールセンターが本格的に動きだすと、託児所の問題も出てくる。そういう中で、愛の園保育所で延長保育を試みたらどうかと思ひ提案しました。

■主な質疑応答

**問** 試験的に1箇所だけ延長保育をしてはどうか各地域で事情も変わってくると思うので、どのくらいの需要があるのかアンケートを取ってみたいかどうか。

**答** アンケート調査は実施したい。

**問** 延長保育を前向きに検討するということを進めて欲しいが。

**答** 延長保育は必要かなと思っている。延長保育をするとなると経費やそ



土庄小学校トランペット鼓隊  
(1月10日出初式にて)

の他必要条件など、また法的にどこまで可能か調べてみたい。

委員会としては、来年4月を目途に進めるよう検討していただきたいと要望しました。



住民環境課

し尿収集および運搬業務の民間委託について

この民間委託計画は、平成17年度の行財政改革で、平成25年度を目途に民間委託の方向性を検討することにしています。それに伴い、職員採用も控え、一定の職員配置により平成21年度から大部地区を試行的に実施する方向で計画をしています。委託業者の選定につい

ては、現在、町内での委託可能業者が3業者考えられます。既に町内の浄化槽清掃における汚泥の収集運搬を実施している業者もあり参入する業者は少ないが、今後の業者育成のためにも可能な1業者を選定して、業務委託を実施したいと考えています。

大部地区を選んだ理由は、最初でもあり、土庄、刈崎のような収集件数、収集量が多い地区でないこと。大鐸、北浦、四海、大部の4地区の中から、御影浄苑に近距離で収集運搬しやすいと考え、大部地区を選定しました。

委託料の積算方法については、大部地区収集実績等から考え、町のし尿汲取手数料は現行210円なので、1斗あたり200円以上の額を委託単価とすると、町の直営による収集経費より高くなるので、県下の状況や町における委託料算定により、200円にしたいとの説明でした。

■主な質疑応答

**問** 民間委託することでコストダウンを図れるのか。

**答** 現時点では職員を2名削減予定し、金額にして約700万円ほど縮減できる見込みで、他の経費などは今後検討していきたい。

**問** 平成25年度までに随時民間委託の地域を広げていくのか。

**答** その予定で進めています。大部地区だけではなく、民間業者の稼働率も悪く、効率もよくないので、随時進めていきたい。

**問** 民間委託が始まると色々問題も出てくると思うが。

**答** 町の職員が業者を指導し、住民への対応に不備がないようしていきたい。



し尿処理業務民間委託スタート(大部地区)



交通問題対策特別委員会

(11月5日)

新住民バス会社設立について説明がありました。

9月14日に第1回小豆島地域路線バス対策会議で、新会社設立に向けた協議がありました。

内容は、路線バス事業を主要事業とし、生活交通路線5路線と土庄町の委託している地域生活交通路線3線、従業員は30名程度の雇用、車両は小豆島バスより約20数台を無償譲渡され、車庫・事務所等は、小豆島バスより賃借する予定であるとのことです。

今後、定款の作成・認証、小豆島バスと新会社の間で事業分割契約、事業認可等を経て、来年4月の運行開始を予定しています。

出資金の2千万円は、発起人、島民住民、団体等に要請をする。小豆島町と土庄町で臨時自治会長会を開催し、新会社は各自自治会に出資のお願いをしています。

10月9日に第2回目の対策会議が開催され、定款の内容などの協議が行われ、会社名は『小豆島オリブバス株式会社』。本店所在地は小豆郡土庄町、資本金2千万円、発行可能株式数、設立発起人13名、役員の人数等を決定しています。設立準備室の設置については、ターミナルビル1階の空き室を町より提供し、10月20日に事務所開きをしました。設立総会は、11月7日に開催されます。資本金2千万円の内、4百万円は両町の自治会が1世帯あたり3000円の出資、他は発起人、団体個人による出資となります。

考えており、議会の承認が得られれば、新会社は、1千万円を増資し資本金は3千万円となり、より安定した経営が可能になるとの説明でした。

次に、2町で立ち上げた小豆島地域公共交通協議会の経過について、報告がありました。

今回、小豆島の公共交通のあり方を考える連携計画の作成作業に入りました。9月29日にプロポーザル方式により、4社に提案してもらい、協議会の選考委員会で福山コンサルタントに決定しました。

今後は部会で、アンケート調査・ヒヤリング調査、試験運行などについて協議する予定です。試験運行は、運輸局への申請が1か月程度かかるので、概ね1月中の1か月くらいが試験運行になる予定との報告でした。

※3 主に業務の委託先などを決定する際に、複数の者に目的物に対する企画を提案してもらい、その中から優れた提案を行った者を選定すること。

水道事業調査特別委員会

(11月16日)

●土庄町水道ビジョンについて

土庄町の水道事業は49年が経過し、施設、配管の老朽化が徐々に進んできています。このような状況の中、厚生労働省より、事業の現状と将来見通しを分析・評価した上で目指すべき将来像を描き、その実現のための方策等を示すものとして、「地域水道ビジョン」の策定が求められました。

(詳しくは議会だより第37号で掲載)

●現在の水道料金について

吉田ダム受水の関係で平成9年8月分使用の料金から基本28%の値上げということで料金改定されたものです。

県内16市町の水道料金を比較すると、用途別の主なものでは、家事用で、使用が一番多い30m<sup>3</sup>で、4,940円になり土庄町は高い方から11番目になります。

また営業用は、使用が一番多い50m<sup>3</sup>の場合、9,760円になり土庄町は高い方から6番目のところになります。

小豆島町との比較では、家事用で小豆島町より安いですが、営業用では使用料が少ないときは土庄町の方が安く、使用量が多くなると逆に土庄町の方が高くなります。

問 水道料金の値上げについて。

答 できれば1回で20%以上値上げすれば安心できるが、難しいと思うので二段階で10%ずつ値上げしたい。

問 財政計画の中で企業債を20億円ぐらい借入るのか。

答 20億円借りると合計で約30億円ぐらいになる。年間の返済は、約1億4千万円から1億8千万円ぐらいになり、30年間の返済になる。

問 肥土山浄水場から更新するのか。

答 一番古いので肥土山浄水場から更新し、その他施設は緊急度に応じて順次計画していきたい。

問 中央監視設備はどこまで監視できるのか。

答 各浄水場の取水状況、配水地の水位状況、配水量などが分かるが、本管が割れた場合等は、大きな漏水でないとわからない。

最後に、次回の委員会に石綿管等の布設替えて必要な経費の資料等、全ての年次計画表の提出と先進地の視察を考えているので、近隣で最新の浄水場を更新した所がないか調べること。もう一点、現在の浄水施設を運転しながら更新していく場合と1箇所の新設する場合との経費の比較を提出するよう要望しました。

12月定例会  
一般質問事項



川本貴也 議員

コールセンター開設に向けた現在の進捗状況について

**Q** 当初の開設予定期日まで約1か月となりましたが、今現在の程度準備が進んでいるのでしょうか。人員確保は、研修を行っているとは言い、具体的な待遇給与面、そして事業内容ですら決定してないように思います。

以前町長は何が何でもコールセンターの開設実現に向け頑張りたいとのことでしたが、協定締結以降からの経過、現在の状況、そして、開設日の延長は有り得るのかお聞きしたい。

**A** 現在の進捗状況は、土庄町とウェルコム株式会社が進出協定を8月15日に締結し、平成22年1月を開設予定期日として、交渉をしていきましたが、この度、施設整備の方針に変更があり、オリーブタウン内の別の施設の建物を利用する方向で検討しています。

変更の理由は、建物の改修費がより安価になる見込みであり、また、建物の面積が旧とれとれ市場跡に比べて約1.5倍となり、将来の業務拡張に対応できるため、とのことです。  
この方針変更に伴い、今後、建物取得手続などに期間を要するため、延期となる見込みですが、遅くとも4月には開設したい、という意向です。また、コールセンター業務は、受注案件によって雇用者数、雇用条件が決定することです。なお、コールセンタースタッフ養成研修は、78名の受講申込みがあり、最終の第5回コースが12月13日で終了します。

**Q** 開設に向けて、協定締結以降どのような努力をされたのか。

**A** ウェルコムと連絡を取りながら、状況把握に努めていたところであるが、今後もあるだけ大いに接触し、促進に努めていきたい。

**Q** 町民の注目している問題でもっと積極的に誘致を勧めるべきではないか。また、4月には間違いなく開設できると確信して良いのか。

**A** 町民の皆さまのご期待に応えるよう最大の努力をこれからも続けていきたい。

前島地区の水資源の確保について

**Q** 次世代のためにも我々は今前島地区の水資源を確保しなければならぬと考えます。新しい水資源の確保のために手法も新しく考案して、調査および研究をする必要があるのではないかと考えます。

ここ2年の間、ギリギリで湧水対策本部を設置しなくても済みましたが、気候の変動や環境の変化などを考えると、直ちに着手すべき時であると思えます。2期目に挑戦されるにあたり、その決意、真意をお聞きしたい。



柳生好彦 議員

とすれば地下水の利用か、ため池の利用ということになりますが、いずれにせよ、その設備投資と今後の維持管理および補修が必要となり、これ以上の浄水場の建設は、困難な状況です。

なお、9月議会で土庄町水道事業調査特別委員会を設置していただきましたので、今後も安定した水の供給を行うため、議会や水道水資源調査プロジェクトチームの意見を参考に水源確保方を模索していきたい。

**Q** 人口密度が非常に高いエリアであるので、様々な効率を考えたとしても、全体を見直すためにもどうしても前島地区の水資源の

確保をやって欲しい。

**A** 水道事業の検討委員会の中で議論し、良い案を出していただき、いろいろ調査研究を進めていきたい。

**Q** 観光のお客様を中心にした交流人口が増えると水の使用量が増えていく。今後豊島地区に美術館ができますし、これを契機にわが町にも文化という大きな波がよせてくると思います。が、交流人口が増えた時に水が不足するようなことでは、間に合わないと思います。そういう中で、何か新しい方法、新しい政権下での本当の自然水をうまく活用していく手法を、現在の技術であれば様々なことができる可能性があります。ではないか。

**A** すばらしいアイデアをいただきまして、そういう研究の推進というのにも頭におき、簡便な浄水、機能など検討させていただきたい。

**A** 前島には、大きな河川もなく、あ

財政改革について

**Q** 将来にわたる財政負担の方向性を示していただきたい。

① 町債残高を減らすことは、将来の財政負担は軽減できるが、町は疲弊し、活性化が見込まれない。

② 逆に町債を増やすことで、将来の財政負担は増加するが、町の活性化にはつながる。

③ 次の総合計画を策定するにあたり、町債の財政負担をどう考えるのか。

**A** 税金、交付税等の減収が見込まれる状況の中、今より多くの町債を残していくことは後世への負担を増やすこととなります。

活性化は、町債を増やすことなく、国県等の補助により行い、町債の財政負担をできるだけ少なくして健全な運営に努めなければならぬと思っています。



川口幸路 議員

近い将来には小学校の再編による建て替えもあり、活性化よりも財政調整基金を減らさない緊縮努力を続けるべきではないかと思っています。

**A** 現在、長期的な計画、財政計画を立てています。財政運営というのは、その事業によって違い、ここで投資すれば元氣が出る、回復する、そういう時には町債の取り崩しをお願いしたいと思います。

沖の島の架橋について

**Q** 人の往来がでる程度の吊り橋設置へ向けて、検討しては

どうか。

① 四海地区の活性化

② 観光スポットになる可能性

③ 24時間往来できる

④ 渡船費用にかかる経費削減（年間約460万円）

① 渡船にかかる雇用者の減（雇用促進の減）

② 費用対効果の問題

③ 地域住民の賛同を得られるかどうか

設置に向けてのプロジェクトを立ち上げて欲しい。

**A** 吊り橋設置に伴う投資効果、地区内の優先順位等を考えると、現行の渡船を継続せざるを得ないと考えています。

**A** 住民からも要望は出ていますが、吊橋では住民は満足しない。歩いて渡れない人もいるだろうし、車を通る橋をと言われたら考えないといけない。負担率、規模など考えながら、夢に近づく努力はさせていただきます。

「予算計画の実行性」について

**Q** 民主党政権にかわり事業の仕分けなどの新しい手法が取り入れられ、交付税等もまだ不明な中での予算組みで編成上支障をきたしている部分もあるとは思いますが、町長ご自身の「計画の実行性」の総括、その上に立った次の予算計画をどのように考えているのか。

**A** 平成22年度の予算要求は、初めて事業別予算の要求を行い、各事業について総合計画の基本計画に従い事業目的、問題点、事業効果を適切に判断するようにしています。

また、将来の事業費も、総合計画の実行に向けて

の予算計画を進めているところですが、当然、時期・場面によっての柔軟な対応も踏まえた計画と実行を心がけていかなければいけないと思っています。

**Q** 次の年度に対し、どのように考

**A** 総合計画の実現の問題ですが、統合した小学校跡地は、戸形小学校は戸形地区の公民館を、大鐸小学校跡地には、多機能の福祉施設を作りました。それから高潮対策、更に土庄港の港湾整備ということも今事業化をし、進めているような状況、土庄中学校の建て替えも終了し、これからの課題として、土庄港の環境整備、小学校の統合、それ以外には小



上川正衛 議員

学校跡地利用、また小学校の建築があります。そういう中、今財政計画プロジェクトチームを中心に財政計画的なものを創っています。

これからの町づくりはやはり地域の皆さま方の協働、力をお借りし、その地域が活性化することが町の活性化につながるといふことなので、そういうコミュニティセンターという拠点づくりは大きな宿題と想っています。ソフトの面でも、村里作りを充実したものをこれからも拡大し、強めていきたいと思っています。

小学校の再編を含めた耐震性の問題で校舎の建て替え、それから、幼保の耐震化、またコミュニティセンター建設など、非常に厳しいものがあるかと思いますが、優先順位をよく考え、安全安心な町づくりに邁進していただきたい。



泊 満夫 議員

町においても事業仕分けの実施を

**Q** 今、なぜ事業仕分けなのか、いまや地方分権により市町村の役割は増大し、権限委譲により業務量は益々増大傾向にある。

一方で、町の財源といえば経済情勢の悪化などでいっそう厳しい状況となってきた。こうした中で行政サービスの維持向上、町づくりを進めていくためには、枠配分方式の予算編成など大枠としての削減が難しくなってきたこと、また定員適正化計画に基づき職員数の大幅な減が進む中、行政が行うべき役割を見直す時期がきている。町としての事業仕分けの取り組み方向について伺います。

**A** 平成22年度の町の予算要求は、事業別予算の要求を行い、事業ごとに効果を的確に判断するようにしている。

規模の大きな組織では事業仕分けに外部評定者を導入していると聞いている。本町程度の規模で評定者の選定はそぐわないのでは。各プロジェクトの事業検討結果を新年度予算に反映していきたい。

**A** 国が事業仕分けは大変評価が高い。わが町では事業仕分け以上に厳しい査定をやっている。

来年度に向けては時間的ゆとりがないので無理である。政策的経費以外の予算編成は自信がある。来年度以降、一つのシステム作りは必要と思っている。

平成22年度当初予算の基本的枠組みはどのような考え方がか

**Q** 21年度は経常経費3%、補助金5%削減の方針で予算編成し、執行中である。

政権交代後の制度改革で「ひも付き補助金」を改め「一括交付金」の方向が考えられている。

このことはやり方を誤ると、他町との格差を生ずる可能性もあり、町も、議会もその責任を問われる時代になる。来年度の予算編成の基本方針は。

**A** 平成22年度は経常費・各種補助金は、過去マイナスイニングで数年経過している。今年度は0シーリングとしている。



## 町議会を傍聴してみませんか！

町の本会議は、公開されています。町政がどのように進められているかなど町議会の実際を知りたい方は、いつでも傍聴することができます。

詳しくは、議会事務局  
(TEL 62-7011)へお問い合わせください。

次の町議会は、3月上旬頃から予定しています。



エンジェルロードと日の出

## 編集後記

今年、寅(庚寅)か(のえとら)年です。

庚には、「ものが改まる。」更新の意味があります。

寅という字は、もともと「矢」と「収」が合体してできた字で、「矢を両手で挟んでまっすぐに正している様子」だとか、「つつしむ」「まこと」「うやまつ」「ただす」という意味があります。

では、今年、庚と寅が相まって従来の物事を改め(正し)、新しい筋道をつけ、新たな成長へと向かう年ということになります。

また、寅年には参議院議員通常選挙が行われます。

寅年現象と云って、寅年の参議院議員通常選挙は、投票率が上昇する現象があるそうです。翌年に統一地方選挙(わが町も)を控えているから？

今年、何を正すのかは、皆それぞれ？

〈邦彦 記〉